

# SDGsをひとことで言うと？

2015年、国連にて提言された2030年までの17の持続可能な開発目標。最近日本でも注目の高いトピックです。しかし私たちはSDGsで何をしたいのでしょうか。そもそも何を、どうして、持続させたいと考えますか？エコ〜ど京大メンバーにインタビューすると一人ひとり違う考えを持っているのが見えてきました。

インタビュー：白井亜美(総人B3) <https://eco.kyoto-u.ac.jp/>



# 「い」から考えるSDGs

プラスチックに関係する社会問題が注目を集める中、エコ〜ど京大では、2019年6月27日に「京都大学プラハラス宣言」を発表しました。それを皮切りに、様々なステークホルダーの方々と、改めてプラスチックについて考え、出来ることから行動を始めるのが「京都大学プラ・イド革命」。例えば、京大生協とは、中央食堂で傘の傘取り機の設置、北部食堂でのリフィル用の水自販機の設置の実証実験などを実施しています。また、2020年7月には、80以上の企業・団体と協働して、シンポジウムや博覧会を開催予定です。

プラスチックとの付き合い方を考えると、依存度、意識度、異常度…プラ「い」度が問われます。プラスチックに関わる問題は、SDGsすべてに関わってくるといっても過言ではありません。今回は、エコ〜ど京大メンバーがSDGsの各ゴールを「い」で表現してみました。詳しくは、ウェブにて！



**1 貧乏をなくそう** 「貧困をなくそう」とは… **「Prerequisite-貧困は他人には判断できない」**  
 田中千尋(農B3) / 「そもそも解決すべき「貧困」とは何であるか？」「私たちはその人自身の苦しみを無視して、無意識に自分のものさしで他人が貧困か否かではないかを判断してしまふ。一人ひとりの主観的価値観の大切さに向き合う必要があると改めて感じた。

**2 飢餓をゼロに** 「飢餓をゼロに」とは… **「何をどれだけ食べるのか」**  
 奥野真木保(農B3) / 「日本では食糧自給率の低さが課題だが、その重要性はあまり認識されていない。」「輸入が止まるなどの局面に、人々の行動は大きく変わるだろう」と語る。食糧危機を避けることだけに全力を注ぐのではないという心は何だろうか？

**3 すべての人に健康と福祉を** 「すべての人に健康と福祉を」とは… **「Seeds of Happiness」**  
 谷合敬太(法OB) / 「人生100年時代に入っている。」「社会整備が不十分のまま健康寿命が延びると、多くの人が社会保障からこぼれてしまうのではないか。」「これを喫緊の課題とし「世の中を良くしていきたい」と語る。私が持つべきは危機感かそれとも楽観的な解決像か。

**4 質の高い教育をみんなに** 「質の高い教育をみんなに」とは… **「すべての道は教育から通ずる」**  
 駒ヶ嶺光(農B2) / 「世の中には多様な大人がいることを知ってもらいたい。」「多様な生き方を知り、生きる軸が作れるような教育が必要だ」と述べる。教育とは何か、生きるとは何か、なぜ多様な「大人」なのか、これらを見つめる意味について考えさせられる。

**5 ジェンダー平等を実現しよう** 「ジェンダー平等を実現しよう」とは… **「見なくても済むこと」に目を向けて」**  
 野々山千晴(法B3) / 「マジョリティはマイノリティについて学ぶべき」と言葉を選びながら主張する。「マイノリティの苦しみを取り除くためには、力を持つマジョリティこそが歩み寄っていくことが必要だ。では、マジョリティはどんな動機をもって、マイノリティに心を寄せられるのだろうか？

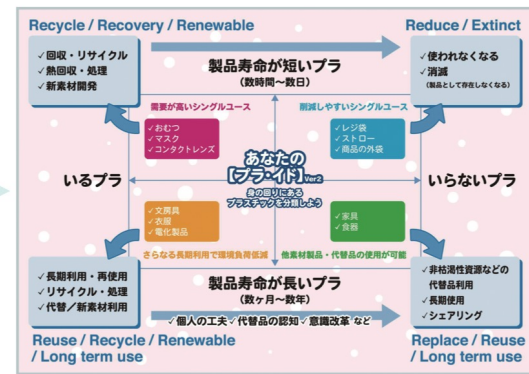
**6 安全な水とトイレを世界中に** 「安全な水とトイレを世界中に」とは… **「いちばん近くにあるもの」**  
 山田千聖(農B3) / 「私が使いたいからきれいなトイレを作りたい。」「結果として途上国の抱える問題が解決されたらいいけれど一番の目的は自分自身であり行動するの自分自身。」「こういった活動を自分のためにできるのであればこれほど強い動機はないのではないか。

**7 エネルギーをみんなに、そしてクリーンに** 「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」とは… **「FITからFUTUREへ」**  
 李娉(地球環境学術OG) / 「まずは自分が勉強していく、自分ができることを頑張る。」「エネルギー問題は国家的な規模の話で、貢献できないと思っていたが皆で努力すれば解決に向かう。」「エネルギー問題の奥深さに引き付けられ、彼女の意欲的な姿勢に自分も背筋が伸びる思いがした。

**8 働きがいも経済成長も** 「働きがいも経済成長も」とは… **「学校の先生」**  
 山口真広(農M1) / 「時代の流れを重視しすぎていないだろうか。」「働き方が変わる中、今まで積み上げられてきた働き方を理由なく否定していないか。」「多様な働き方と伝統との意外な共通点から実態のよく見えない現代の生きづらさを分析し、理想像をとらえてみたい。

# 京都大学 プラ・イド チャートとは

京都大学プラ・イド革命を支えるツール。プラスチックの使用量を減らすにはどれを対象にできるか、本当に必要なものは何なのか、対策を考えるために開発しました。身の回りにおけるプラスチック製品を個人の価値観と客観的な指標で分類します。横軸は消費者の主観的な意見で「いるか・いないか」、縦軸は客観指標としての「製品寿命」。すると、プラスチック製品が4つに分類できます。これを用いて、身の回りのプラスチックを分類することで各製品に対して取るべきアクションや社会的な評価が可視化できます。



**9 産業と技術革新の基盤を作ろう** 「産業と技術革新の基盤を作ろう」とは… **「そろそろ立ち止まって考えたい」**  
 小野田千寛(工B4) / 「これは難しい問題だということがわかってきた。」「この言葉が繰り返して語られた。」「経済成長は必ずしも豊かさにつながると限らないのではないか。多くの知を求め学んできたからこそ問題の複雑さを目の当たりにしているのだろう。」

**10 人との不平等をなくそう** 「人との不平等をなくそう」とは… **「『恩情』ではない、自戒と温情だ。」**  
 西道重(総人B3) / 「主体が「彼ら」であると考えている限り、それはその人にとっての真の「問題」とはならず、同情するにとどまってしまう。実際にパレスチナで生活しその空気を肌で感じたからこそ説得力とその姿勢、SDGsとつながれた親しみやすい主張に圧倒された。」

**11 住み続けられるまちづくりを** 「住み続けられるまちづくりを」とは… **「誰のための「街」なのだろうか」**  
 横井晴紀(経済B3) / 「自分は外部の人間だから住民たちの溝がどうしてもある。」「持続可能な街を作ろうと思ったら10年は短すぎるので、2030年までの10年は準備期間でしかない。」「持続可能な街づくりを考えたとき、住民でなかったら私たちは誰のために何をすべきだろうか。」

**12 つくる責任つかう責任** 「つくる責任つかう責任」とは… **「生きることは消費すること」**  
 安藤悠太(工D3) / 「ものを作って使って捨てるという営みは、人間が培ってきた社会活動の本質的なのではないか。」「結局は欲望には忠実でありながら、溢れる無駄を減らしていくことが「第一歩」と主張する。無駄を減らす中で、私たちにどんな愛着がうまれるのだろうか。」

**13 気候変動に具体的な対策を** 「気候変動に具体的な対策を」とは… **「急ブレーキは、かけられない」**  
 上田知弥(工B4) / 「気候変動対策のゴールはどこにあるのか。」「例えば南極が氷が溶けてしまふ温度まで気温が上昇してしまった今、仮に温度上昇が止まったとしても氷は溶け続ける。では何を目標していくのか。」「どこにも正解はなく、私たちは自分で目標を立てていくしかない。」

**14 海の豊かさを守ろう** 「海の豊かさを守ろう」とは… **「皆が生き続けたいと思えるような環境作り」**  
 後鳥友里(農B3) / 「自分が普段使うものがプラスチックだと気づかなければ、これからも使い続け、捨て続ける。」「プラスチックに囲まれているという気づきを広めていく10年間にしたい」と語る。何かに気がつくことで生き方が変わり、他人事ではなくなっていくような気がする。

**15 陸の豊かさを守ろう** 「陸の豊かさを守ろう」とは… **「森林に最大の尊敬を」**  
 西本早希(農B3) / 「持続可能な森」とは自然のままの森というよりも、欲と資本を持った人間が利用し続けられる森のこと。形としての森はお金と時間があれば簡単に作れるが、果たしてその森はどの時代の誰のための「持続可能な森」になりうるのだろうか？

**16 平和と公正をすべての人に** 「平和と公正をすべての人に」とは… **「省察とバランス感覚」**  
 久保文力(農B4) / 「平和と公正と聞くと普段の生活の中で身近に感じづらい印象を持つ。」「しかし、これは国がもっとクリアな機関になるように一人ひとりの行動を変えていくべき目標でもある。」「どうしたら一人ひとりが自らの行動が有効であると認識できるのだろうか？」

**17 パートナリシップで目標を達成しよう** 「パートナーシップで目標を達成しよう」とは… **「ちょっと心を決めて共感する」**  
 白井亜美(総人B3) / インタビューの中で多くの人が「これは行動に移すための理解を得やすい問題ではないか」と口にした。その論理を理解するためには、その人がどう理解しているのかを理解するプロセスが欠かせないことを実感した。そうして共感して初めてその人に協力できる。目標を達成できるのではないだろうか。